

【5】

氏名(本籍)	ふる た ひろ こ 古 田 弘 子 (岐 阜 県)
学位の種類	博 士 (心身障害学)
学位記番号	博 甲 第 2201 号
学位授与年月日	平成 11 年 7 月 23 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査研究科	心身障害学研究科
学位論文題目	発展途上国の聴覚障害児早期教育への援助に関する研究 —わが国のスリ・ランカに対する援助を中心に—
主査	筑波大学教授 教育学博士 吉野 公喜
副査	筑波大学教授 教育学博士 中村 満紀男
副査	筑波大学教授 柳本 雄次
副査	筑波大学教授 村田 翼夫

論 文 の 内 容 の 要 旨

本論文は、発展途上国の障害児早期教育への援助について、わが国による聴覚障害児早期教育への援助に焦点を絞り検討することを目的とした。この目的を具体化するために、わが国が唯一長期的に援助を実施してきたスリ・ランカを取り上げ、わが国の援助の特質や効果、スリ・ランカにおける聴覚障害児早期教育の有効性とその早期教育モデルを検討している。従って、この論文により、発展途上国の障害児早期教育への援助に関する示唆とともに、わが国が今後障害児教育分野における発展途上国援助を進めるための示唆を得ようとするものである。

本論文は、序論 1～5 章、本論 6～9 章、結論及び資料から構成されている。

本論文の研究方法としては、スリ・ランカでの実地研究を重視し、調査研究、文献研究、実験研究の 3 種類の方法が採られている。

本論文の序論では、障害児教育への援助の定義、スリ・ランカにおける子供の聴覚障害の現状が示された。さらに、わが国の聴覚障害児早期教育および発展途上国における障害児早期教育のモデルが提示された。

本論では、最初に第 6 章で、スリ・ランカの障害児教育の発展過程における外国からの援助とスリ・ランカにおける障害児早期教育の位置づけについて、その障害児教育の現状を踏まえながら検討した。加えて、スリ・ランカの障害児教育の発展に影響を与えてきたスウェーデンの援助について、双方の国の特定教育機関による施設間協力による長期的な援助であるという特質をもつことを指摘した。

次に第 7 章では、わが国がスリ・ランカにおいて実施した援助の経緯を明らかにした上で、援助の特質を指摘した。援助事例として、わが国が 1980 年代に実施した聾学校幼稚部開設への援助、及び 1990 年代に実施した聴覚障害プレスクール開設への援助という 2 案件が取り上げられた。さらに、聾学校幼稚部開設への援助プロジェクトの短期的・長期的効果およびその社会的影響について検討した結果、総合的に見てこのプロジェクトが十分な援助の効果をスリ・ランカにもたらしたという結果が得られた。

続いて第 8 章では、スリ・ランカにおける聴覚障害児早期教育の有効性について、実験的に検討した。その結果、聴覚障害児早期教育が、特に子どものコミュニケーション能力、話しことばの発達に対して有効であることが実証された。一方両親に対する構造化面接の結果、両親のもつ宗教・文化に根づいた伝統的な考え方を理解した上で両親援助を進めることの重要性が示唆された。

以上の結果を総合的に考察し、第 9 章では、最初にわが国の援助について検討した。わが国の援助を、第 6 章

で検討したスウェーデンの援助と比較するとき、障害児教育分野に対する基本方針や国内に専門的に活動を支援する期間をもたず、個人ベースの援助であったことが指摘された。次に、わが国が今後障害児教育への援助を実施する上での基盤となる事柄が提示された。さらに、わが国の援助の効果に関して検討し、援助を受け入れる期間で障害児早期教育のニーズが十分に認識されている場合に、プロジェクトが受け入れられ、長期的効果につながることを指摘された。

次に、スリ・ランカの聴覚障害児早期教育モデルについて検討し、わが国からの転移モデルである「都市型モデル」と、わが国からの転移モデルが地域の実状に沿って大幅に変容させられた「農村型モデル」が並存していることが示された。

最後に、発展途上国の障害児早期教育への援助に関していくつかの提言がなされた。

- (1) 発展途上国の障害児早期教育は、とりわけ外国の援助を必要とする領域である。
- (2) 発展途上国の関連領域における責任者への情報提供と意識の啓蒙・啓発が重要である。
- (3) 発展途上国における早期教育モデルは、その国や地域の実状に合わせたモデルを構築する必要がある。
- (4) 援助を実施する側は、被援助国の文化的な側面に十分な理解をもつ必要がある。
- (5) 被援助国の障害児教育の関係者にたいして、早期教育へのニーズの十分な認識を図ることが重要である。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、発展途上国であるスリ・ランカに対するわが国の聴覚障害児早期教育の援助の特質および有効性を実証的に解明したものである。日本のスリ・ランカにおける障害児教育および障害者支援の援助プログラムは、聴覚障害児早期教育を嚆矢とし、その継続性と有効性は国の内外で高く評価されている。著者は、聴覚障害児早期教育の臨床実験を生かし、「JICA派遣専門家」として援助の実際に携わった視点から、援助国の被援助国に対する聴覚障害児教育を中心とした障害児教育の援助のあり方を考察し、新しい知見を提出している点は大いに評価できる。しかし、スリ・ランカにおける言語的、文化的背景および民族的背景を変数とした視点と考察が必ずしも十分になされていない点など批判の余地を残している。

よって、著者は博士（心身障害学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。